

まち塾



寺町台商興会 × 寺町寺院群

《テーマ：商店街とお寺でコミュニティ》



寺町台商興会/永島生花店

「生花店を寺町で百年、商売の秘訣」×「花と禅」

○寺院群とのコラボレーション 【桂岩寺(曹洞宗)@寺町】

少なからず寺町台商興会はお寺と共に繁栄してきました。共に活動をし、また共に行事にかかわり、商店・お寺の繁栄が町の振興に貢献するという相互関係の大事にし、協同で「まち塾」を開催する事になりました。

寺町の寺院の多くは加賀前田家とゆかりが深いお寺であり、もとは、金沢城の防衛能力を強化する為、武士を配置し砦として用いられました。また、一向一揆対策とし、一向宗以外の寺院を寺町等にまとめ、一向宗に対して監視の目を光らせたといわれています。ですから門徒は武家が中心でした。

寺町に商店街が形成され始めたのは明治期からのことです。日清戦争の後、軍備増強の必要性から1898年（明治31年）に大日本帝国陸軍の第9師団の駐屯地が野田につくられます。約25,000人の兵士が駐屯し、彼らの慰問に訪れる家族などが寺町通りを往来するようになり、商店街が次第に形成されるようになりました。

第二次大戦後は、平和町での団地づくりや、野田の自衛隊基地などにより、人口が増え、商店街が維持されてきました。

寺町400年、商店街100年の歴史があり、その間に、商店とお寺に提携関係が生まれました。

永島生花店は墓参用の花を寺院に納品しています（寺院には墓地があります）。

寺町の菓子店の多くは、旧陸軍駐屯地を慰問する人が、兵士への手土産として購入したところから、店が生まれ、発展したものです。お寺自身や墓参用に菓子を購入することもあります。

寺院群は、地元商店の顧客であります。商店主は寺院の檀家、門徒であるケースはほとんどありません。一方、コミュニティ活動の視点からは、商店主も寺院の住職も地域住民であり、ともに町内会活動に携わっていたり、小中学校の同級生や同窓生であったり、PTA活動に携わっているなどの関係があります。

現在の寺町台商興会は、閑静な住宅地に支えられながら、住民の高齢化による商品需要の変化や、駐車場不足によるマイカー利用者離れなどの影響も現れています。商店街サイドでも、店主の高齢化や後継者難の課題を抱えています。

寺町のまち塾は、寺院が持っている空間と知識を提供してもらい、商店は顧客を寺院に足を運ばせ相互の提携関係が生まれることを目的にしています。

【地域資源としての寺院】

- 活用できる空間（境内や本堂）
- 寺院の歴史（築100年以上の古刹、庭園）
- 仏教文化（仏像などの文化財）
- 僧侶による多種多彩な講話

【活用法】

- 場所をイベントに活用する（フリーマーケット、講習会など）
- 観光資源として活用（商店主や店員が観光ガイドを兼ねる）
- 観光土産や観光サービスの開発

これら、まち塾を第一歩とし、提携関係を構築していきます。

1. まち塾の概要について

- 【塾長】 永島生花店店長 泉 ゆうこ 氏
桂岩寺 住職 蒲田 敬章 氏
- 【会場】 桂岩寺（寺町1丁目6-46）
- 【内容】 ・【講話】 生花店を寺町で百年、商売の秘訣（泉氏）
・【実習】 五百羅漢へ、お花を生け方伝授（泉氏）
・【講話】 花と禅（蒲田氏）
- 【対象】 地域住民（十一屋・泉野・長坂台エリア）

○永島生花店(花卉小売業)とは

【創業100年になる老舗生花店。泉さんは3代目店主、経験25年】

- ・和花の専門店（茶花などプロ用のお花）
- ・寺院などへの生け込み
- ・生花教室の開講

店主 泉 ゆうこ（永島家 長女）妹さんと同店を経営

【寺町の寺院とのつながり】

- ・寺町寺院の他、桂岩寺(曹洞宗)とは40年来のお付き合い
- ・桂岩寺の生け込を担当
- ・桂岩寺に母親が五百羅漢を寄贈

○五百羅漢とは

五百羅漢とは、お釈迦様が亡くなられたあとに行われた御教えを皆で確認する結集という集まりに参加された五百人を超える聖者のことを総称して五百羅漢と呼ばれています。

羅漢とは梵語でアラハン、音訳で阿羅漢と呼びます。略して羅漢と呼ぶ。意味は”悟った人、世の尊敬を受けるに値する聖者”という意味です。

羅漢様の存在はお釈迦様の御教えを衆生に伝え、「煩惱（貪、瞋、痴）の故に起こるあらゆる人間の苦しみを救済せよ」、との釈尊の遺命を受けて衆生の中に居て衆生と共に暮し、仏法を説く聖者であります。

五百の羅漢像をゆっくりと見ながら羅漢堂を一周するとご自分と因縁の強い方の御顔が浮かんでくると伝えられています。

○内 容

- ・寺町で百年間営む永島生花店、寺町での商売の秘訣を語る
 - 寺町のロケーション
 - 寺院と生花店の関係
 - 独自の商品（和花＝わばな）の強み
 - お花の生け方を伝授

- ・お寺とのコラボ

桂岩寺の五百羅漢に花を生け、五百羅漢が奉納された歴史的な理由などに興味を持っていただく。歴史的、文化的な建造物である寺院、寺院群に触れることにより、親しみを感じ、買い物の帰りにお参りをし、あるいは、お参りのあとに買い物をするなどの習慣などを期待する。

2. これまでにまち塾に取り組んだ商店

～寺町台商興会×寺町寺院群～

第1回まち塾 ブラジル屋（自家焙煎コーヒーの販売店）

〔テーマ〕 スペシャルティ・コーヒーを淹れてみよう！

開催日時 平成27年11月25日（水）

開催場所 宝集寺（寺町1丁目6番39号）10時～12時

第2回まち塾 宇野甘源堂（煎餅の製造販売）

〔テーマ〕 3代目店主が手焼きせんべいの魅力を語る

開催日時 平成27年12月19日（土） 10時～12時

開催場所 妙法寺（寺町4丁目2番6号）

3. まち塾（まちなか商店学習塾）とは

～地域資源×商店×地域住民で、賑わい創出とまち・ひとの活性化へ～

●まち塾のスタイル

まち塾は商店主が塾長を務め、地域にお住まいの皆様に塾生になっていただきます。塾長が専門店ならではの貴重な情報や地域への思いを語り、また、塾生の皆様の声に耳を傾けます。個性的で経験豊かな商店主の人柄に触れることができるでしょう。

●まち塾の目的

まち塾は、商店街のお客様だけではなく、地域にお住まいの皆様と商店や商店街との関係を深めるために開講するものです。まち塾をきっかけに新しい商店街活動が自主的に始まることを目的にしています。

●地域資源を活用するまち塾

まち塾は、地域資源を商店街活動に活用することを考えます。地域資源は特産品や文化財だけにとどまらず、まちの景色や風習であったり、魅力的な商店主や住民であったりして、想像力を膨らませれば無限に湧いてきます。

寺町台商興会では寺町の寺院や寺院群を地域資源ととらえ、お寺とお店のコラボレーションでまち塾を企画しています。

●昨年（2014年）のまち塾

まち塾は平成26年から始めました。昨年（2014年）のまち塾で「発掘」した地域資源には、地域の病院、古い町家と町家の連なる街並み、ご近所にある保育園や幼稚園などがあります。それらを活用する試みとして、「糖尿病予防の健康料理教室」「町家を活かした店づくりとモノづくり」「絵本の読み聞かせ」などのまち塾を開講しました。